

朝5時、市場は威勢のいいセリのかげ声からはじまる (大阪中央市場で)



「カメラ・ルポ」市場のなかの「県産品」

話題

氣勢あげる熊本みかん

☆ 五年目を迎えた熊本みかん取引懇談会

熊本のみかんが、本格的に、東京市場を中心とした、県外市場に、共同出荷されたのは、三十三年から。みかん取引懇談会もこれをけい機として、「熊本みかん」の銘柄を、各市場に、認識してもらい、また、三十四年にはじめて、東京中央市場において、産地側か、寺本知事はじめ、第一回の懇談会を開催した。

この懇談会は今回で五回目を迎える。三十四年当時は、熊本みかんばかりでなく、九州産のみかんは、東京市場に、年間、入荷されるみかん全体量の一〇〇程度で、その大半は、出荷前期(十月―十一月)において、愛媛、和歌山、広島県産のもの、出荷後期(一月―三月)には、静岡、神奈川県産のもので、しめられている状況であり、各市場においても、熊本のみかんはおろか、九州みかんについての、認識はうすいものであった。

しかし、取引懇談会の回数をかさねるに従い、本県における、みかんの生産状況も、十分、認識して貰い、また生産者も、東京市場における、消費状況、各県の出荷状況等、多くの改善点をまなび、市場における、出荷量の増加とともに、その品質の良さ、特に甘いみかんとして

の特性が、市場及び、消費者に、認められ、一躍熊本みかんの、市場性を高めるに至った。

最近、その名声を高くしている甘夏柑についても、はじめて、東京市場に、出荷された折には、市場関係者は、その販売については、積極的ではなかったが、関係者をまじえた、試食懇談会によって、その特性が認められ、現在の名声を勝ち取ったもので、このように、消費者に喜んで、たべてもらうに前に、これを、販売する荷受機関の側に、その果物の特性を十分に、キャッチして貰うことが、いかに必要かということがいえる。

また、三十六年には、全国みかん規格が、現在の五階級に統一され、木箱による箱詰め方法か、ダンボール利用による、ばら詰め方法に改善され、これに関連し、商品化向上施設としての、選果場が、各産地に設置されたことも、共販推進にたいする、大きな成果だといえよう。さらに出荷量は増加したが、指定出荷市場も多くなり、現在、京浜市場十二、京阪神市場五、中京市場三、北九州市場七六、北海道市場一、県内市場九と成っている。今年のみかん取引懇談会は、十一月二

十五日から、京阪神市場は京都市、中京市場は名古屋、京浜市場は東京都で寺本知事はじめ果実連及び産地関係者と、荷受市場及び仲買人、小売人の方々と、熊本のみかんの販売についての懇談および、市場の研修が行なわれたが、特に、東京市場においては、私たち関係者が、出荷目標としていた、一万トン出荷が、達成され、これにより、東京市場における熊本みかん、販売基盤が確立され、また、消費されることだろう。

今年の計画出荷量は、二万三千トンで、これは県下みかん販売量の六五〇にあたり、これは、昭和三十四年の、出荷量に比較する、二、三倍の出荷量となり、いかに熊本みかんが、ここ二三年の間に、大市場に進出したかがわかる。今後、生産量の増加とともに県一本化による共販体制を確立し、全国市場を対象とした、熊本みかんの販売を推進したいものである。(果樹特産課)

A. 熊本みかんの昭和35年～37年の出荷実績 (共販)

年 度	京 市	浜 場	京阪神 市場	北九州 市場	福 市	岡 場	その他 県外	県 内	計
35	2,820	979	1,846	1,763	1,370	1,652	14,096		
36	4,842	1,544	2,231	1,941	947	692	13,891		
37	7,354	2,597	1,761	2,039	1,399	566	15,819		

B. 熊本みかんの昭和35年～37年の出荷価格の推進 (東京市場) 1K当り

年 度	35	36	37
み かん	59円	75円	87円
夏 み かん	37	36	50

C. 昭和38年度熊本みかん出荷計画

京 市	浜 場	京阪神 市場	中 市	京 場	北海 道場	北九州 市場	其 他 県外	県 内	計
11,080	3,620	350	200	4,340	2,150	860	22,600		